

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	さくら一む二十四軒			
○保護者評価実施期間	2025年 9月 15日 ～ 2025年 9月 30日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29名	(回答者数)	24名
○従業者評価実施期間	2025年 9月 15日 ～ 2025年 9月 30日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数)	8名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 10月 31日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	身体バランス感覚、体の感じ方と動きを結びつける基礎づくりに重点を置き、姿勢保持・バランス・手先の操作性など、日常生活に欠かせない力を育てています。遊びの中で達成感を感じられる経験を多く準備し、生活動作への自信と意欲につながっています。	一人ひとりの発達段階に合わせて、運動あそびを行っています。活動前後の見通し提示や振り返りを取り入れ、「できたこと」を共有しながら成功体験を積み重ねています。また、家庭での様子や困りごとを聞き取り、生活動作の課題に直結する支援に生かしています。	身体機能の変化が日常生活にどのように反映されているかを可視化できるよう取り組みます。生活動作を支える力（食事・排泄・身支度など）がより安定するよう継続して取り組んでいきます。
2	丁寧な声かけや関わりにより、職員との信頼関係を築き、安心して過ごせる居場所づくりができています。視線を合わせたコミュニケーションを大切に、子供が自分の気持ちや意欲を表出しやすい環境を整えています。	児童の気持ちに寄り添いながら、適切な距離感で関わることで、安心して活動に参加できるよう支援しています。活動中は視線や表情、しぐさなどのサインを読み取り、共感的に回答することで、自己表現やコミュニケーションの広がりにつなげています。また、成功体験を共有し、自信につながる関わりを大切にしています。	安心感だけでなく、発達課題に合わせて表情や視線など非言語コミュニケーションの育ちをより促せる関わりを行います。家庭や幼稚園、保育園との連携を進め、安心して自身を表現できる場面が広がるよう支援の一貫性を図ります。
3	食材を「見て・触って・匂って」体験できる活動を通して、食への興味を育む支援を行っています。誰かと一緒に食べる楽しさを大切にし、偏食傾向のある子供でも、少しずつ新しい食材にチャレンジしやすい環境づくりができています。	安心して挑戦できるよう、まずは興味を持つことから始め少量で「食べてみようかな」という気持ちを育てています。友達姿を見ながら「一緒に食べる」体験を積み重ね、食に対する興味、関心を引き出しています。また、季節の食材や色・形の違いなどを楽しめるよう取り組んでいます。	家庭での食の困りごとを丁寧に聞き取り、事業所での取り組みと結びつけていけるよう取り組みます。無理なく安心して新しい食材に挑戦できる支援を継続し、食べられた経験が家庭の食事でも広がるよう、保護者との連携を取ります。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	子供の多様化するニーズに対し、職員間で専門性の幅や得意分野に差があり、全体として支援の質をさらに高めていく必要があります。	日々の支援業務が中心となり、外部研修への参加機会の確保が難しいことがあります。また、新たな支援手法や評価方法を取り入れるための、共有や振り返りの時間が十分に確保できていないです。	支援スキル向上に向けた研修参加を計画的に行い、得た知識や手法を職員間で共有する機会を増やしていきます。ケース検討やロールプレイ等を取り入れ、共通理解と支援の標準化を図ることで、質の高い支援体制を強化していきたいです。
2	保育園や幼稚園との情報共有が十分にできない場合があり、事業所での支援内容が園での生活へ活かしきれないことがあります。	園ごとに連携の方法や時間調整が難しく、保育士とのコミュニケーション機会が取りにくいです。子供が園と事業所の行き来をしている状況も多く、一貫した支援の方向性を確認する場が不足していると感じています。	日頃の様子を共有できるようにし、必要に応じて電話や訪問を行い、生活面・集団参加の課題を共有しながら支援の一貫性を図りたいです。また、保護者を介した三者のコミュニケーションを増やす工夫も検討していきます。
3			